

1. 単元名 「みんな生きている ～福住学に発展させて～」

2. 単元の目標

- ・生き物を探したり飼育したりする活動を通して、生き物が成長していることや、生命をもっていることに気付くことができる。 (知識・技能)
- ・生き物を探したり飼育したりする活動を通して、生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。 (思考・判断・表現)
- ・生き物を探したり飼育したりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち大切にすることができるようにする。」に重点をおいて設定したものである。ここでは、児童にとって身近な生き物を探したり、それを飼育するための環境を整えたり、さらには、その変化や成長に気付いたりする活動を行うものである。生き物を教室で飼育し、生き物を観察するという活動を通して、生命の大切さに気付き、飼育する生き物にとって必要なことを調べたり、よりすみやすい環境にするためにすみかを工夫して作ったりするなど、継続的な飼育をすることで生き物へのかかわり方も学ぶことができる単元である。

(2) 児童観

本校は自然豊かで山や畑が身近にあり、日常的に多くの生き物を児童が目にする機会が多い。本学級の児童も虫を見付けると大騒ぎをしながらも観察したり、嬉々として捕まえようとしていたりしている。その一方で、自ら捕まえた生き物を継続的に世話したことのある児童は少なく、休み時間に虫捕りをして生き物を捕まえても世話をせず、そのままにしてしまうことがあった。生き物に興味・関心はあるが触れないで眺めているだけの児童も数名おり、生き物と触れ合う体験が少ない児童もいる。このように生き物には興味はあるものの、命を大切に、継続的に世話をしようとする児童は少ない。

(3) 指導観

本単元では、児童一人一人が生き物探しを行って生き物を捕まえ、各自で生き物を育てていく。ここでは児童一人一人の思いや願いが連続していくために、生き物の住みか作りの活動を繰り返し行う。図鑑やタブレット等で調べながら、生き物が喜ぶための住みか作りを繰り返していくことで、それぞれの児童に成功体験や失敗体験など様々出てくると思われる。それらの体験を通して生き物の住みかに必要なものとそうでないものに気付き、生き物が喜ぶための住みかにしたいという願いをもち続けながら生き物が元いた場所に近付けるような住みか作りを繰り返し行い、気付きの

質を高めていくようにする。

さらに、福住学と関連させ、福住の地域にいる生き物と、市街地にいる生き物との違いにも気づかせたい。その中で福住と市街地との環境の違いや、今、問題になっている外来生物について学ぶ機会を設ける。これらの活動を通して、自分たちが福住の地域の生態系を守っていくためにはどのようなことができるのか考えさせたい。

#### (4) ESDとの関連

##### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…身近な環境の中で多種多様な生物が観察されること。

公平性…生き物を育てる活動を通して、自他の生命を尊重することが大切であること。

有限性…生命は有限であり、かけがえのないものであることから生態系を支える必要があること。

##### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

自然とのつながりを理解し、それらのつながりを様々な角度から考えることができる。

つながりを尊重する態度

自然などの生態系のつながりに関心を持ちながら、生命を尊重しようとしている。

協働的問題解決力

自分たちが集めた情報を整理し、分析しようとする。

##### ・本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境、生態系の保全を重視する価値観

自分たちの行動で、自然環境を維持していくことも、逆に壊してしまうこともできるということ  
を理解し、生態系の保全に努めようという意欲を持つ。

幸福であることを大事にする価値観

自分たちが通っている福住の自然の豊かさに気づき、豊かな自然環境の中で学校生活を過ごせることに対する幸福を実感する。

##### ・達成が期待されるSDGs

目標 15「緑の豊かさを守ろう」

生き物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする思いを育てたい。

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①身近な生き物に関心をもって関わろうとしている。	①生き物のすみかの特徴を予想しながら、生き物探しをしている。	①生き物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。
②生き物の育つ場所、成長の様子に関心をもって、世話をしようとしている。	②生き物の育つ環境の違いなどを意識しながら、育てたい生き物を選んでいる。	②育てている生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。
③生き物は生命をもっている		③生き物を生命あるものとしてと

ることや成長していることに気付いている。	③育つ環境と関連付けながら、観察したり世話をしたりしている。 ④育つ場所、環境を調べたり予想したりしながら、関わっている。	らえ、すみかとなる自然環境を大切にしようとしている。
----------------------	--	----------------------------

## 5. 単元の指導計画（全15時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価
1	○生き物を見つけたり、捕まえたりした経験について交流する。 ・植木鉢の下にたくさんのダンゴムシがいたよ。 ・ビオトープの中におたまじゃくしがいっぱいいたよ。その周りにアマガエルがいるのを見たよ。	・それぞれの生き物が見つかった環境ごと（畑・川・田んぼ・山等）に板書を分け、生き物とすみかの関係に興味をもたせる。また、場所ごとに他に見つけたことのある生き物について想起させる。	ア① (知・技)
2	○探検に出かける計画を立てる。 ・虫とり網や虫かごが必要だね。水路に行く時はバケツや長靴もあった方がいいね。 ○生き物探しに出かけ、見つけたことや気がついたことを話す。 ・畑の土の中にミミズがたくさんいたよ。 ・水路でおたまじゃくしを見つけたよ。	・同じ生き物を見つけた友達の話を聞かせ、自分が見つけた場所と同じであることに気づいたり、違う生き物を捕まえた友達の話を聞かせ、生き物によって、すみ場所が違うことに気づいたりできるようにする。 ・単元を通して、生き物の住む場所の特徴への気づきを促す。	イ① (思判表)
3	○生き物の世話の仕方を調べる。 ・図鑑やタブレットで調べてみよう。 ・3年生も2年生の時に飼っていたよ。3年生に聞いてみよう。 ○生き物のすんでいる場所の特徴を考えながらすみか作りをする。 ・草が茂っていた所で見つけたから、草を植えよう。 ・今は水の中で生きているけど、成虫になったら、木を登って羽化するから、木を入れておこう。	・生き物を飼うために、生き物に適した餌や育て方について知る必要があることに気づかせる。 ・生き物に名前をつけ、親しみを持たせる。 ・違う生き物の世話をしている友達の飼育かごと自分の飼育かごを比べたり、同じ生き物の世話をしている友達の飼育かごの工夫を共有したりして、生き物に合ったすみかの特徴を捉えることができるようにする。	ア② (知・技) イ② (思判表) ア③ (知・技) ウ①② (主体的)

4	<p>○顔や足などの体の特徴や、生き物の変化の様子に注目して観察し、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の形は逆三角形だね。口から牙みたいなものが見えるよ。</li> <li>・飛び出してきたカタツムリの触覚の先の丸いのが目なのかな。</li> <li>・おたまじゃくしの足はしっぽの近くから生えてきたよ。</li> </ul> <p>○友達と伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物によって、カタツムリの糞の色は変わるよ。</li> <li>・おたまじゃくしは、後ろ足が生えてから前足が生えるんだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫めがねを用いて観察することで、気づきが広がる。</li> <li>・産卵や羽化のタイミングを逃さないようにする。親の姿と比べることもしたい。</li> <li>・それぞれの生き物が一生懸命生きようとしていること、命を繋げようとしていることを捉えさせたい。</li> <li>・観察する中で、生き物にとってすみかは生きる上で重要であることに気づき、生き物が場所を選んで生きていることに気づかせる。</li> </ul>	<p>ウ① (主体的)</p> <p>イ③ (思判表)</p>
5	<p>○家の近くにいる生き物を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜にホタルが飛んでいるのを見たよ。</li> <li>・家の近くの水路で、アメリカザリガニを見つけたよ。</li> <li>・ぼくの家近くでは、ホタルやアカハライモリを見たことがないよ。</li> </ul> <p>○なぜ地域によって見つかる生き物が違うのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカハライモリやホタルは、きれいな水のところに住んでいるみたいだよ。</li> <li>・アメリカザリガニは、もともとは日本にいなかった生き物なんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭に協力を依頼し、児童と一緒にそれぞれの家の周りに住んでいる生き物を見つけて、写真を撮影させておき、比べさせる。</li> <li>・地域によって、住んでいる生き物が違うことに気づかせる。</li> <li>・福住の自然の豊かさへの気づきを促す。</li> <li>・在来種・外来種という視点も提示し、今どんなことが問題になっているのか捉えさせたい。</li> </ul>	<p>イ④ (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
6	<p>○福住の生き物を守っていくために、どんなことができるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕まえた生き物を逃がす時は、元いた場所に戻さないといけないな。</li> <li>・水をきれいにするために、みんなでゴミ拾いをしよう。</li> <li>・山田町で「ホタルを守ろう」という看板を見たよ。ぼくたちもできないかな。</li> <li>・この前、3・4年生が学校の水路で生き物探しをしていたよ。その水路でホタルが育てられないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の活動へと発展させるために、自分たちができることを考えさせるようにする。</li> <li>・生態系を守るためには、どんなことができるか多角的な視点で捉えられるようにする。</li> </ul>	<p>ウ③ (主体的)</p>

7	<p>○ホタルが見られる福住小中学校にするためにどんなことができるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルについて、もっと詳しく調べてみよう。</li> <li>・3・4年生に水路で見つかった生き物を聞きに行こう。</li> <li>・山田町の「ホタルを守ろう」の看板を立てた人にも話を聞きたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は福住学として学習を深めていく。2年生だけでは難しい取り組みは、他学年にも協力を仰ぎ、縦割り活動として学校全体で取り組めるようにしていく。</li> <li>・山田町の地域の人をはじめ、福住地域の人たちに協力してもらえるように依頼する。</li> </ul>	<p>ア① (知・技) ウ③ (主体的)</p>
---	--	---	--------------------------------------